

目標、目的、心の支え、生きがい、どんな呼び方でもいいけれど、その頃のわたしは、それどころか、自分が何を求めているかさえわからなくなっていた。

離婚、引越し、転職と目まぐるしい転機のと、なかなか仕事が定着しない数年が続いた。一人で生きていくという気負いが却って仕事や会社への不満、反発となり、何度も転職を繰り返していた。そんな状況では目の前のことで精いっぱい、何よりも優先されるのは安定した仕事に就くことだった。

そして10年を経て、やっと正社員で働ける会社に入ってなんとか頑張って1年が過ぎた頃。社長の急死。社内の体制も変化することになり、その1年後、リーマンショックがやってきて我が社にも大きな影響をもたらした。そういったことが原因の全てではないけれど、社内の人間関係もギスギスしたものとなり、わたしの関心事は会社のことばかり。それも不平不満、愚痴がほとんど。友人に送るメールでもわたしの生活は会社しかないのかというような内容の繰返しとなった。

新しい家族を持たないわたしには、親兄弟と同じくらい友人の存在は大きな支えだ。それだけに親しい友人との行き違いは大きなダメージにもなる。

会社での立ち位置も掴めないまま不満を募らせ、上司の悪口で鬱憤を晴らし、うまくいかない同僚の陰口を言い、行き詰まっているなあと感じていたときに、そんな友人との行き違いが起こって、自分が何を望んでいるのか、どうしたいのか、どうにも道が見えない心もちになってしまった。

そんな時その苦境を相談した人が言った一言が見方を変えるきっかけとなった。50歳を過ぎていて、今更何ができるか、もう目標も持てないと言ったわたしに、その人は「この年齢だからできるんじゃない。今までより自由でしょ。」と言った。その一言で、そうか、今からでも夢を持っていいんだ、とわたしは考えを変えることができたのだ。

転職を繰り返していた頃は、仕事に生かせる資格を取りたいと思ったことも何度かあったが、資格を取るための資金不足などを理由にして実行できないままだった。幸い生活を支えるための仕事があるのなら、今度は仕事のための資格にならなくても勉強したいことを始めるチャンスなんだと思ったのだ。

何年か前からカウンセラーに興味があったので、養成講座を探したり、電話相談の経験のある友人に話を聞いたりしている中で行き当たったのが放送大学だった。勉強も授業料も少しずつでいいというのが大きな魅力だったし、心理学だけでなく、それ以上に好きな文学も学べるのが決め手となった。もともと大学は国文学志望だったが、大学受験は全滅だったのだ。

学び始めてひとつずつ単位を取っていくうちに、わたしにもまだ覚える力が残っている

ことを知った。今までと違う分野にも興味がわいてきて、科目選択の度に学びたい科目が増えている。

日々の生活や会社に大きな変化はないし、何も気にならなくなったというわけでもない。ただ、今は勉強に忙しくてクヨクヨ考えて愚痴をメールしている暇もない。考えることが減ると自然と大抵のことは忘れていくものだ。おかげで少しは心が穏やかになったのかもしれない。

一人暮らしで勉強を続けていくことは、時間は自由になるし邪魔も入らないけれど、それだけに孤独との闘いが結構辛い面もある。それでも、折々に励ましてくれる友人もいるし、結果を訊ねてくれる家族もいる。面接授業に出かけていけば、さまざまな年齢、仕事、地域の人と出会うことができ、大きな刺激を受けている。今までの生活では出会うことのなかった人たちとの交流を楽しんでいる。

目標は学位取得と認定心理士だが、かつて求めて得られなかった大学で文学を学ぶということも大事な目的のひとつとなっている。

仕事やお金に結び付かない勉強だとしても、どうやらわたしには相性が良かったようで、少しずつ新たな知識が増えていくことが楽しくてしかたない。勉強を続けているうちに、勉強以外にもやりたいことがたくさん出てきたし、いつか放送大学で学んだことが役に立つ活動ができたという望みも持っている。

そう、こうして、わたしはふたたび未来を手に入れたのだ。